

子育て支援施策のさらなる充実が図られます。

人口減少、少子高齢化が進む中、長崎市の平成30年度予算は、「人口減少の克服」と「交流の産業化」による長崎創生に向けた取り組みや「次の時代の長崎の基盤づくり」など、未来への投資につながる施策を着実に推進するという考えのもとに編成されたことが市長から述べられました。

特に、喫緊の課題である人口減少対策の一つとして、子育て環境の充実などにさらに力を入れて取り組みを進めることとし、2月定例会では子育て施策に係る新たな制度の創設や、従来の制度の拡大による子育て環境の充実を図るための議案が提案され可決されました。

●給付型奨学金の創設

〈第31号議案「長崎市奨学金条例の一部を改正する条例」〉

一部を改正する条例

この議案は、国（日本学生支援機構）や県（育英会）における大学生向けの奨学金が拡充される中、長崎市の奨学金を利用する大学生は年々減少していることから、大学生の貸与型奨学金を廃止し、一時的に多額の費用を要する高校入學準備の負担軽減のため、入學に係る給付型奨学金制度（以下高校生等入學給付金）を創設しようとするものです。高校生等入學給付金は市独自の新たな制度であり、平成30年4月1日から

施行されます。対象者（下記参照）には高校生等一人につき6万3200円が給付されます。なお、高校生等入學給付金の新設に伴い、大学生への貸与型奨学金は平成31年度に廃止されますが、平成30年度までに貸与の決定を受け平成31年度以降も貸与を希望する場合は、在学期間中貸与されます。

●子ども医療費の助成対象拡大

〈第35号議案「長崎市福祉医療費支給条例の一部を改正する条例」〉

この議案は、子どもの健康保持と子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、子どもの医療費の一部を助成している福祉医療費の支給制度について、通院に要する医療費の助成対象を拡大しようとするものです。

子ども医療費については、これまで助成対象を順次拡大し、支給方法についても見直しが行われてきました。平成28年4月には入院及び通院における助成対象を小学校卒業までの児童に拡大し、平成29年10月には入院の助成対象を中学校卒業までの児童に拡大しています。今回の改正では通院の助成対象者が中学校卒業までの児童に拡大されます。

なお、助成対象の拡大は平成30年10月1日から施行されます。

カズオ・イシグロ氏を名誉市民に選定

昨年、長崎市出身の英国人作家カズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞を受賞しました。ノーベル文学賞の受賞は本市出身者としては初めてであり、その卓絶な功績とともに、高邁な人格と識見を有しており、今後も市民の誇りとなることから、2月定例会において同氏を名誉市民として選定するための議案が提案され、同意することに決定しました。



▲全会一致で同意されました

高校生等入學給付金の対象者（平成30年4月1日施行）

以下の要件を満たす者の保護者

（ただし、生活保護世帯及び市民税所得割非課税世帯は除く）

- ア 高等学校、高等専門学校、専修学校の高等課程及び中等教育学校の後期課程のうち通信制でない学校に在学すること
- イ 経済的な理由によって修学が困難であること（就学援助における準要保護者相当）

2月定例会の概要

平成30年2月定例会を、2月21日から3月15日まで開催しました。

定例会初日の本会議では、長崎駅周辺再整備、観光客受入対策、雇用・人口減少対策の3つの特別委員会から委員長報告が行われました。（詳細はP8）

その後、常任委員会の委員の選任を行い（各委員会の名簿はP12）、市長からは、平成30年度の予算編成や、主な取り組みについての施政方針説明と、各議案についての提案理由説明がありました。

2月26日から3月2日までは市政一般質問を行い、16名（会派代表質問7名、個人質問9名）の議員が登壇しました。（詳細はP3～7）

3月5日から12日までは各常任委員会において付託された議案の審査や所管事項調査を行いました。（詳細はP9）

定例会最終日の15日は各常任委員会の委員長から議案審査の報告を行い、市長提出議案60件を議決（平成30年度一般会計予算については減額修正）しました。（詳細はP10～11）

その後、都市整備・交通対策、地域づくり・人口減少対策、コンベンション誘致対策の3つの特別委員会を設置しました。（各委員会の名簿はP12）